

酪農における HACCP 推進農場に向けた取組
(第 1 報)

丹後家畜保健衛生所
○福田奈穂 岩間小松

【はじめに】A 農場では平成 14 年から HACCP システムに取組むが、専門用語の多さや記録の煩雑さ等から定着せず。今回、加工品販売促進のため、後継者が農場 HACCP 推進農場指定を目指して再度取組を始め、当所が支援したのでその概要を報告。【指導内容】①責任者を後継者とし、農場 HACCP 指導員を加えた HACCP チームの立ち上げ。②家畜や生乳に対する衛生管理方針の文書化。③チーム員の仕事の内容と責任を示す役割分担表の作成。④指導員が搾乳に立ち会い、作業工程図に基づき工程を検証し、搾乳作業のフローダイアグラムを作成。⑤既存の記録簿の活用。⑥バルク室等の環境検査。【成果】①わかりやすい反復指導と既存の記録簿の活用により農家がチーム構成・役割分担表、衛生管理方針、搾乳作業のフローダイアグラムまで順調に文書を作成。②搾乳立会では過去に指導した搾乳手法が遵守されていることを確認。③記録にかける負担を軽減。④環境検査結果は概ね良好。⑤後継者が農場 HACCP 指導員研修を受研する等、安心・安全な生乳生産に対する意識が高揚。【今後の展開】A 農場では、27 年度末までの推進農場指定取得が目標。当所は危害要因分析や文書作成等に対する助言、農場衛生管理に関する検証・改善を継続的に指導。さらに完成度を高めるとともに、このシステムを酪農業に広く普及。